

	項 目	前回の委員会（R5. 2. 10）以降の取組・経過等	今 後 の 対 応	担当課
1	ドルフィンポート跡地等の開発	<p>○令和5年2月20日、県がスポーツ・コンベンションセンターPFI等導入可能性調査の最終報告を公表した。</p> <p>○5年3月28日、県が第3回鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会を開催した。</p> <p>○5年4月3日、県がスポーツ・コンベンションセンターPFIアドバイザー業務委託に係る公募型プロポーザルの実施を公表した。</p>	<p>鹿児島港本港区エリア全体が、市民・県民や観光客の集う、潤いやにぎわいのある交流空間となり、さらなる中心市街地のにぎわいの創出や回遊性の向上に繋がるよう、利活用に係る検討委員会で議論するとともに、県市連絡会などにおいて、意見交換を行う。</p>	都市計画課 スポーツ課
2	サッカー等スタジアムの整備	<p>○令和5年2月10日以降、サッカー等スタジアム整備検討協議会の委員又は所属団体に対し、候補地検討の経緯等の説明を行った。</p> <p>○5年2月20日、県がスポーツ・コンベンションセンターPFI等導入可能性調査の最終報告を公表した。</p> <p>○5年3月28日、県が第3回鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会を開催し、第1回及び第2回の検討委員会で出された意見等について、市から説明を行った。</p> <p>○5年4月3日、県がスポーツ・コンベンションセンターPFIアドバイザー業務委託に係る公募型プロポーザルの実施を公表した。</p>	<p>鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会での論議も踏まえながら、引き続き、県と市の間で協議を行うなど、緊密な連携を図るとともに、具体的なスタジアムのあり方等について検討を進める。</p>	スポーツ課

令和5年4月11日

鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査特別委員会

提出資料 No.2

第3回 鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会について

1 開催概要

(開催日時) 令和5年3月28日(火) 14時～16時

(開催場所) 市町村自治会館4階「ホール」

(会次第等)

1 開会(事務局)

2 議事※委員長による進行

(1) 鹿児島港の港湾計画について

【事務局(県)配付資料】 ※事務局が説明

資料1 鹿児島港の港湾計画

(2) 環錦江湾ネットワークの意見について(P3)

【委員配付資料】 ※郷原委員が説明

錦江湾を活かした都市デザイン

(3) 検討委員会で出された意見等について

【事務局(県)配付資料】

資料2 検討委員会まとめへの意見(申入れ)(P3) ※委員長が説明

資料3 スポーツ・コンベンションセンターPFI等導入可能性調査の最終報告

※事務局が説明

資料4 検討委員会で出された意見の概要 ※事務局が説明

資料5 県議会における論議の状況 ※事務局が説明

資料6 今後の論点 ※事務局が説明

参考1 第2回検討委員会の議事録

参考2 本会議における論議の状況

【委員配付資料】 ※松山委員が説明(P4～5)

鹿児島市資料1 スタジアムに関する確認事項について

鹿児島市資料2 中心市街地のにぎわいの創出や回遊性の向上に資する事業
(令和5年度)

(4) 意見交換

委員による意見交換(P5～10)

(5) 令和5年度の進め方と視察候補箇所について(P11～13)

【事務局(県)配付資料】 ※事務局が説明

資料7 令和5年度の進め方と概ねのスケジュール

資料8 視察候補箇所(案)

(6) その他 ※議事概要を県ホームページにて公開することについて連絡

3 閉会(事務局)

2 委員等出席状況

委員（15名）

氏名	役職名	出欠
委員長 北崎 浩嗣	鹿児島大学 法文学部 法経社会学科 教授	出
委員長代理 木方 十根	鹿児島大学大学院 理工学研究科 建築学プログラム 教授	出
有馬 勝正	（一社）鹿児島市商店街連盟 会長	出
有村 和晃	鹿児島県旅客船協会 会長	出
有山 まり子	消費生活アドバイザー	出
岩崎 芳太郎	鹿児島商工会議所 会頭	出
太田 正隆	（株）JTB総合研究所MICE戦略室 主席研究員	出
大西 英二郎	鹿児島港運協会 会長	出
郷原 茂樹	環錦江湾ネットワーク 代表	出
津曲 貞利	鹿児島経済同友会 代表幹事	出
西村 幸夫	國學院大學 観光まちづくり学部長	欠
升本 喜之	（一社）九州経済連合会 事務局長	出
松山 芳英	鹿児島市 副市長	出
森 正則	（株）日本政策投資銀行南九州支店長	出
森下 晶美	東洋大学 国際観光学部 国際観光学科 教授	出

アドバイザー（1名）

組織名等	出欠
国土交通省 九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所（所長）	欠

オブザーバー（3名）

組織名等	出欠
奄美市（総務部長）	欠
鹿屋市（市長公室長）	出※ウェブ
霧島市（企画部長）	出

3 傍聴者等人数

傍聴者 7人

ユーチューブ瞬間最大視聴者 61人 ※3月28日からアーカイブ配信を実施中

県議会議員 0人

報道機関 12社

4 環錦江湾ネットワークの意見について

(郷原委員)

- ① 陸では交通が渋滞して時間が無駄ですので、船で中心街に近づいてこれる手段が必要ではないかと、それは、本港区が空いてるので、あそこだったら鹿児島市の観光地、中心街、景色も世界的な桜島を望む1番いい場所なので、ここに中継地点を作ってマリンポートから高速船でつなぐことが必要ではないか。
- ② もう一つ、クルーズ船、ツアー会社の方々と言われるのが、短時間で鹿児島の最高のものを味わってもらおう場所を作って欲しいと、例えば、日本一になった黒牛とか黒豚、薩摩焼、そういったものを短い時間に十分味わえる拠点をを作って欲しいということ。

5 検討委員会で出された意見等について

(1) 検討委員会まとめへの意見(申入れ)

松山委員が委員長へ申入れた4点に対して、以下のとおり委員長が回答。

(委員長)

- ① (1点目、ゾーニングについての議論を進めるとともに、観光、交流、にぎわいをテーマとした意見交換の場を設けていただきたい、という申入れについて)この検討委員会においては、委員の皆様から様々な御意見をお聞きして、そして、本港区エリアの利活用の全体像、同エリアのどの場所にどういった機能を持たせるかというゾーニングの検討を行うことを目的としている。従いまして、今後はこれまでに委員の皆様からいただいた様々な御意見を踏まえた、例えば、申入れをいただいたような観光拠点としての在り方などについても当然引き続き意見交換を行っていきたいと思っている。
- ② (2点目、ウォーターフロントパークの方向性については、ゾーニングについての議論を踏まえた上で整理されるものと認識しており、意見の集約に向けては、引き続きゾーニングなどについて丁寧な議論を行っていただきたい、との申入れについて)限られた時間の中で、最終的な導入機能やゾーニングに向けた議論を前に進めていくためには、前回申し上げましたが、多くの方が同意を得られるものについては、ひとつずつ積み上げていくことで議論の方向性を出していく事も必要と考えている。ウォーターフロントパークにつきましては、海辺の空間、特に海に親しめる空間として残すというご意見や、県民全体のものとして守るとのご意見など、複数の委員から保全が必要だというご意見が出ている。検討委員会としても、議論の方向性として、多くの方の同意が得られるものと考えているところ。
- ③ (3点目、サッカー等スタジアムによってどういう回遊性が生まれるのか、ということについて)有馬委員からいくつか市の説明に対して質問事項があった。それについて、私自身も出来る限り市からの回答を得て欲しいということで、私が委員長として出来る範囲での回答を求めたということで、後ほど市からの回答いただくために論点を整理して説明しますが、出来る限りの回答をいただきたいという風に考えている。
- ④ (4点目、議事録のことについて)事務局の方に修正をした方がいいのではないかとということで、今事務局の方から、修正した議事録が出ているところ。

(2) 市のサッカー等スタジアムの確認事項について

委員長から、「景観を含めたシビックプライドの形成に寄与する材料、観光交流機能と食文化発信機能がサッカー等スタジアムが配置されることによってどう生かされるのか、中心市街地への経済波及効果、特にサマーナイト花火大会と比較しての説明、サッカー等スタジアムによってどういう回遊性が生まれるのかについて、出来る限りで結構なので説明をお願いする」旨の発言があり、松山委員が、以下を説明。

(松山委員)

- ①本港区エリアにつきましては、本市のまちづくりにとって大変重要な地域でありますことから、うるおいや賑わいのある交流空間となるよう中心市街地の更なる賑わい創出や回遊性向上を図る観点などからゾーニングの議論が進められることを期待している。
- ②「1 スタジアムとシビックプライドの関係性」については、これは色々な形があるが、(1) プロスポーツが醸成するシビックプライド、として、スタジアムにおける観戦体験、特にスタジアムを訪れ、その地域や都市を代表するチームを応援する行動が、地域や都市への愛着・誇りを高め、シビックプライドの醸成に寄与することを示す研究もあり、スタジアムには、このような効果もあるものと考えている。なお、参考として、学術研究や関連調査の抜粋などを掲載しているので、お目通しをお願いする。
- ③(2) まちの誇りとなるスタジアム、として、桜島や錦江湾の眺望が楽しめ、さらに、本市の自然景観や街並みとの調和に配慮したデザインで整備することにより、地域のシンボルとして市民・県民に愛され、まちの誇りとなるスタジアムになるものと考えている。なお、参考として、展望デッキからの眺望イメージをお示しした。
- ④「2 観光交流拠点機能及び食文化発信機能をもたらす効果」については、旅行者でもある観戦者やイベント参加者に対し、県内の観光地等に対する情報提供や、食をはじめとする鹿児島魅力をアピールすることで、さらなる消費拡大、波及効果が見込めるとともに、試合等のマスコミ報道を通じた鹿児島の情報発信にもつながるものと考えている。(1)観光交流拠点機能及び(2)食文化発信機能においては、それぞれの導入機能について、他施設等のイメージをお示ししておりますので、ご確認いただきたい。
- ⑤次に、「3 経済波及効果」については、スタジアムとサマーナイト大花火大会における来場者数及び経済波及効果額について、表に整理した。スタジアムは花火大会に対し、来場者数は、6倍強の約43万人、経済波及効果額は、9倍強の63億円が見込まれているところ。なお、米印にありますように、スタジアム需要予測等調査・整備検討支援業務の最終報告を本市ホームページで公表しているので、ご参照頂きたい。
- ⑥これまでの委員会の中で、回遊性に関するご意見もございましたので、本市において現在取り組んでおります回遊性の向上やにぎわい創出など中心市街地の活性化に資する事業について、少しご説明をさせていただきたい。

- ⑦本港区エリアにおいては、これまでも取り組んでまいりました、「⑫かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会開催事業」や、その下「⑬錦江湾潮風フェスタ開催事業」のほか、新たに、「⑰ナイトタイムエコノミー実証実験事業」として、観光客の滞在時間延長や消費額拡大を図るため、インバウンド誘客につながる夜間等における観光コンテンツの創出に向けた実証実験等を実施することとしている。また、センテラス天文館の前では、「③歩いて楽しめるまちづくり推進事業」として、「3-5 天文館通電停前アーケード整備支援」や、甲突川の左岸では「3-2 加治屋町1番街区市街地再開発事業」を、さらに、マルヤガーデンズと本港区をつなぐマイアミ通りにおいては「3-6 マイアミ通り歩いて楽しい空間づくり社会実験事業」などに取り組むこととしている。
- ⑧このように、本市としては、鹿児島中央駅周辺からいづろ・天文館地区、本港区を結ぶ都市軸の機能の充実を図り、中心市街地の活性化に向けた居心地がよく歩いて楽しい都市空間の創出にソフト・ハードの両面から重点的に取り組んでいくこととしており、歩いて楽しめるまちづくりを進めるに当たっては、当委員会におけるゾーニングの議論も踏まえながら、各面からの施策を検討していく必要があるものと考えている。
- ⑨当委員会において、中心市街地のさらなるにぎわい創出や回遊性向上を図る大きなまちづくりの観点から、また、国際クルーズ船の寄港再開や、かごしま水族館、しおかぜ通りなど、既存の観光施設を生かした土地利用も念頭において、本港区エリアにどのような機能を配置することが望ましいのか、ゾーニングについての議論を進めていただきたい。

6 委員による意見等（発言順）

（岩崎委員）

- ①今、論点の話が出ましたけど、ここに道路の問題が入っていないのは、非常に最終的にとんでもないゾーニングというか、できたらマリンポートのオプシアミスミみたいな状況になりますよ皆さん。しっかり何回も申し上げているように、やっぱりインフラ。人流物流は紙の上で書くんじゃないで、道路の上を通るわけですから、しっかり道路計画を抜きにしてゾーニングの話はしないでいただきたい。

（大西委員）

- ①臨港道路というメインの物流に関しては、非常に重要な、まだ完成途中ではありますけど、作って頂いている。スポーツ・コンベンションセンター及びその他の諸々ゾーニングの中で、メインにくるような事柄にならないと、要するに人流物流ということにはならないと思う。しかも、物流に関して、非常に大型化するというので、非常に道路も傷みやすくなって、谷山港等々を例にとりましても、非常に道路が傷んで、わだちができていたり、走りづらい状況が、それで補修をするというたちごっこになって、また渋滞が発生するというような矛盾が生まれている。
- ②それがないような状況にするには車線を多めに広くとっていただいて渋滞の緩和をするというところに人々が歩きやすいということも出るでしょう。

- ③道路の必要性和クルーズ船に関しましてもたくさん入るのは結構ですけど、クルーズ船は水も積まないといけない、食料も積まないといけない。そうするとやっぱり水道の料金が安い港で積んでしまう。食料等々もコンベンションセンターなどが出来ると、大型船ですとやはり船まで届かないといけない。そういう食料も大量になってくるので、冷凍冷蔵いろんなチルド等々の食品を船の中にオーダーに従って積み込むと、そういう環境等のことも考えた上で、クルーズ船の対応をしていただかないと。

(木方委員)

- ①これまでの議論の中でも、これまでの経緯であるとかあるいはグランドデザインであるとかそういう大きなマスタープランというものの重要性あるいはその価値についての話があり、それはもうその通りであると思っている。今回の利活用に関する検討委員会は、そういった大きなコンセプトも踏まえつつ、具体的に実際に土地を利用していくにあたっての有り得べき調整というものを行っていくものだと思いますので、今回のこの資料6にあげられているような各カテゴリーの問題、公共機能の確保、こういったものが具体的にどういう状態でないといけないのか、あるいはどういったところだったらものが調和できるのかとか、その他のこともより具体的に検討を進めていただきたい。
- ②その中でも特に景観への配慮という問題、今までも議論がありましたが、これも単純に保全をするということ、これもまあ大きな考え方はそういうことだが、具体的にそれをどういった形でその保全をするのか、より精度の高い検討をする必要があります、それはこの委員会だけで検討するのはなかなか難しいので、ぜひそれに対する検討体制をしっかりと作っていただいてより具体的で、精度を高めた検討ができるように進めていただきたい。

(森下委員)

- ①あくまで観光という立場からだけの話で、どういうお客様を想定してお話しが進んでいるのかがちょっとずっと見えてなかったが、3回ほどいろんなものを見させていただいて、ようやくなんとなく見えてきた。
- ②ひとつは県内もしくは近隣の日本国内の近隣から来られるお客様、それともうひとつはインバウンド、中でも大きなクルーズ船で来られるお客様というのが、大きくは2大お客様なのかなという風に話を聞きながら思っていた。
- ③観光って本当に成熟度が早くて、みんなが受けるようなものをつくろうと思うと誰にも受けないので、ある程度こういうお客様だけにというのではないのですが、やっぱりこういうお客様であればこういうものを作っていくというようなところが必要かと思うので、国内の近隣、それからインバウンド、クルーズ船というようなところがあるかと思う。
- ④そうなってくると、クルーズ船のお客様っていうのは、どちらかというといかに消費をしていただくかっていうのが、ひとつのポイントになってくるかと思うので、さきほど道路の話があったが、動線をどうしてどういうふうな形にしてというのをいかに消費していただくかと、ここがポイントになってころうかと思う。
- ⑤それから、近隣のお客様であれば、いかに地元の方に楽しんでいただくかというようなところになるんじゃないかと思う。

⑥それともうひとつ、これはここの議論の中には出てきてはいませんが、離島への航路があるというところで、インバウンドの中でも、クルーズ船のようないっぱい来るけど、そんなにお金
が落ちないお客様ではなく、もう少し高付加価値のお客様を、離島を中心として、九州全体の自然なんかを活かして、とれるポテンシャルは十分にあると思う。それは今、観光庁なんかでも高付加価値商品ということを進めており、この度、九州、鹿児島や阿蘇なんかを含めました九州地区が採択されるはず。なので、そのへんというのは消費額の高いお客様を取れるかと思うので、インバウンドに関してはクルーズ船のお客様ともう少し高付加価値のお客様というこの3つのお客様を軸足で想定を考えられたらどうかという印象を受けた。

(岩崎委員)

- ①今の先生のご発言にちょっと修正を加えておきたい。鹿児島商工会議所はクルーズ船で来る方を観光客と思っていない。今おっしゃったように、鹿児島商工会議所は、日本で一番最初にクルーズ船を誘致するというのを昭和44年に始めて、マリンポートは日本で唯一のクルーズ船の専用バースである。横浜も神戸も全部専用バースではない。そういう意味じゃ、政府はクルーズ船のお客を、ご指摘のように全く寄港地に経済効果が無い人数を数百万人カウントして、3千万人とか言ってるが、われわれはそんな虚構の中で観光事業をやっていない。当然、富裕層マーケット、それから鹿児島っていうのは、コロナが終わった瞬間から最も人気港で、100隻をこえて寄港することになっている。ロイヤルカリビアン、カーニバルクルーズ、その他世界の有数なクルーズ会社が、日本だったら、都会は除いて、鹿児島に寄せたいという風になっている。
- ②ただ、残念ながら一銭も落とさない、中国資本のお土産屋さんに突っ込んで、パンパースとか資生堂の化粧品を買うみたいなものを我々はありがたがっているわけではない。先生がおっしゃるように、彼らにどうやって鹿児島で本当にお金を落とさせるか。あとは、他の港で食料を積み込むんじゃなくて、1円でも多く鹿児島のをクルーズ船に売り込むと、我々はそういう戦略でほぼ50年くらいずっと地道に積み上げている。
- ③私がずっと申し上げているのは、いわゆる我々は本港区に作りたかった。世界のクルーズ船寄港地というのは、ダウンタウンへのウォーキングディスタンスっていうのが絶対条件だった。不幸にして、本港区に数万トンの船をつけることができなかった。それは、離島航路の集約っていうのが、港湾計画のメインに据えられたから。我々はしょうがないので、今のマリンポートのところに、誰もクルーズ船の港を理解がないときに、商工会議所が10万人の書名を集めてあそこをつくった。今、やっと世間に理解できるようになってきたが、残念なのは、ウォーキングディスタンスではない。
- ④マリンポートからどうやってウォーターフロントにもしくは天文館地区に引っ張ってきて、そこでお金を落としてもらうかというまちづくりというのが会議所メイン戦略の重要なひとつ。先生のおっしゃることは、我々は農業と観光業でこの地域を発展させていかないといけないという自覚があるので、それなりに我々のレベルで理解しているつもりである。

(有村委員)

- ①港の関係で、ちょっと一言。前回、ここ北ふ頭南ふ頭が、離島航路の発着場で、離島の方々は先の方に何十万人住んでいると、そういうお話をしたと思うが、実際にどのくらいの人乗り降りしているのか、どのくらいの車両が動いて、どのくらいの貨物が入り出しているかをお話してなかった。85万人から90万人近い方々がこのふ頭を利用している。車両で言えば約3万台くらいの車両が入り出していて、貨物で言えばさらにあと20万トン近い貨物がこのふ頭から入り出している。
- ②そういう状況があったので、非常に道路の問題だとか、大きな施設が出来て、本当に大きなイベントをやったときに、その方々がスムーズにターミナルまで行けるのかどうか。ターミナルは行き止まりで、Uターンして出くってというシステムになっている。特に南ふ頭は、一本しか道がない。その手前に大きな施設ができて本当に駐車場がその両サイドにできると、大丈夫かなと。県の先ほどの説明だと、うまいことやりますと言ってたが、一回動線はちゃんとやってもらいたい。

(津曲委員)

- ①物流と人流の視点から道路および交通量をしっかり吟味するということは必然である。賑わいが創出し、物流が盛んになれば当然今の道路からはオーバーフローするわけで、そのことによる様々な障害ということについてはあらかじめ検討していかなければ大変なことになると思う。
- ②加えて、公共交通網を含めたアクセスについては、しっかりと検討していただきたい。
- ③ゾーニングについて、ゾーニングの議論は極めて重要だと思うし、単機能だけでゾーニングを捉えないようにしていただきたい。例えば、文教地区とか、工業地域とかあるが、単機能で考えると、その時間、ある一定の時間はいいが、例えば夜はゴーストタウンになって非常に保安の確保ができないとか。あるいは土日が賑わっても平日が、賑わわないとかそういったことがあるので、ゾーニングをする場合には、複合的な機能で、考えるべきではないか。
- ④ゾーニングに加えて、日常非日常をしっかりと時間軸で捉える必要がある。24時間という時間軸、曜日という時間軸、そういったもので考えて、結果的にこの大きな領域の全体の稼働率がそれなりに平準になっていくようにしていくことが結果的に交通の問題についても緩和されていくわけであるから、ぜひこのゾーニングに加えて、そこに集う人間や物流の量をカウントしながら、日常非日常の状況、24時間の状況、曜日の状況といったことを考慮して、悔いの残らないようなランドデザインを作っていただきたい。
- ⑤スポーツ・コンベンションセンターのPFIについて、今、PFIがベターであるという最終報告をお聞きした。この方向で進められるとしたとき、あくまでもスポーツ・コンベンションセンターというのは、アスリートファーストで考えていく、体育館機能というものがベースにあるので、アスリートファーストをベースにした仕様に基本的にはしていくべき。何が申し上げたいかというと、スポーツ・コンベンションセンターは、あそこでコンサートをしたいというのではなく、あそこで大会をして、いい成績を収めたいというようなスポーツ施設になるべきであり、それにふさわしい仕様書にして頂きたい。床材、コートスペック、あるいはユニバーサルデザインとか、今後、障がい者スポーツや、あるいはジェンダーとかいろんな問題がある。その中に、きちんと配慮して、それを仕様の中には入れていただきたいという要望を申し上げる。

(有山委員)

- ①PFI のところでも建物のデザインという話が出た。デザインというと建築物自体のデザインについてと思うが、もちろんこれをシンボリックなものにすることで、建物自体が人を呼び込むものになる可能性はあって、重要なことだと思う。ただ、それだけではなく人に優しいユニバーサルデザインであったり、環境に配慮したものであったりということもデザインの中に含まれると考えた方がよろしいのではないかと考えている。
- ②スポーツ・コンベンションセンターだけではなく、あのエリアということを考えてとやっぱり景観を背景にしたこの場所で、私たちが何をしたいのか、どう過ごしたいのか、例えば郷土料理を楽しみたいとか離島の文化に触れてみたいとか県内の農水産物、特産品の買い物を楽しみたいとか、ただ桜島をぼーっと眺めていたいとか、人によってさまざまだと思うが、この場所で体験できること、イベントなども含めてデザインという発想を持っていく必要があるのではないかと。
- ③自然景観だけではなく、人や建築物やここにあるものが、この場所で作っていく新たな景観というものも、それがまちの魅力につながって、それがさらにこの場所に人を呼び込む力になるのではないかと思う。

(太田委員)

- ①今日は港湾計画、いわゆる施設と言いますかハードについて話を、それから観光の人流というよりは物流関係といった話になってきてしまっている。
- ②私はいつ頃話になるのかと考えているのが、ハコを作って何しても、結局そこを運営する人、例えばPFIで事業者の方がやるにしても、その中でその時だけスポーツ大会をやるわけではない。誘致をすとか、その中でマネジメント、全体のマネジメント、一般的に言えば観光協会、観光コンベンション協会だとかがあって、鹿児島県は観光協会、市としては観光コンベンション協会。いわゆる、県と市が2つあって、都道府県によっていろいろあるが、千葉県みたいに全県でやるところもある。鹿児島県は今後、そういったハードを整備するとしたら、施設にしても何にしても誘致とかマネジメントは誰がするのかなと、いつ頃お話をできるのかなと。
- ③次回先進事例ということで、高松なり神戸なりを予定されていると思いますが、計画書を見ると、港湾の性能の話にちょっと偏りすぎているような気がするので、そういったソフトコンテンツを、これは観光のみならず、色んな催し物なりをマネジメントすることをお考えになるかな、ということ、いつかちょっと議論していただきたい。

(升本委員)

- ①鹿児島市の資料について反対というわけではなくて、意見として申し上げる。スタジアムとシビックプライドの関係性について、たぶんそういうことは重々ご承知の上でおっしゃっていると認識はしているが、シビック、県民市民の方が誇りに思うというのは、プロスポーツチームがそこで走り回る器のことではなく、当然ながらプロスポーツチーム、ソフトのはず。それがあって、その器がサッカースタジアムとか、ボールパークとかがあるから、まず、その優先順位を間違えてはいけない。

- ②これまでの委員会の中で、ちょっとそれはという反応があるのは、その器が鹿児島県民、鹿児島市民の一番のプライドの、プライドというかシンボルの桜島の景観を遮ってしまうという、そこにあるんじゃないかなと思う。くどいようだが、プロスポーツが醸成するシビックプライドはその通りだと思うが、プロスポーツチームが主役で、器ではないということ。
- ③ウォーターフロントパークをつぶしてやることなのか、そのバランスの問題。
- ④クルーズ船の話が出てきているが、自分の経験で申し上げると、例えばヨーロッパ地中海のイタリアの港とか行って、ショッピングに連れて行かれる行かれないは別にして、寄港地でお金を使うか使わないか、自分自身がということを踏まえたときに、お金は使う。なぜかという、乗船するタラップに乗る直前まで、例えばイタリアのジェノバという港であれば、お金を使うショッピングモールが続いている。
- ⑤今回の議論の中で、天文館との連続性という話題が出るが、そのポート機能、ふ頭機能の連続性も非常に重要だと感じる。

(松山委員)

- ①今、升本委員から色々ご指摘いただいた。おっしゃっている意味はよくわかる。1点、ちょっと私達と違うのかなというのが、私たちはスタジアムでプレーする人ではなく、遊びに来ている人を見ているので、そこでプライドを持つのはプレーヤーではない、遊びに、見学に行く、そうした生活スタイルを持っていきたいということで、今、取り組んでいるところ。

(木方委員)

- ①議論の今後のバランスみたいなことを考えた時、ぜひ、今後お話をいただきたいのは、最初に委員長が水を向けていただいたが、特に、北ふ頭であるとか南ふ頭のことについてやっぱり議論が深まってきていない。
- ②どうしてもスポーツ・コンベンションセンターやサッカースタジアムの話があるので、どうしてもウォーターフロントパークの話になってしまうのが、最終的にゾーニングを考えていく上では、全体の議論をしないといけない。議論のバランスとして、特にそういったエリアの話が出て来てなくて、もちろん公共施設としての物流機能等々がある前提ではあるが、何が可能なのかといったところを、少し話を広げていただかないと、なかなかゾーニングの全体像がつかめないといった印象を持っている。

7 意見交換に対する委員長のとりまとめ

- ①今後ゾーニングをする上での、必要条件とか、ハード面、それからマネジメントとか色々な必要なことについては伺った。県民からの公募も受け、視察もやろうと思っている。今日が3月なので、3か月以上空く可能性がある。できれば、木方委員から提案があったように本港区全体の議論がどこまで提案があるか、北ふ頭、南ふ頭、全体の話がちょっと不足しているかなと。おそらく皆さんご意見を持っていると思いますが、時間の問題で提案が出されていないかもしれない。
- ②今後、意見があれば事務局の方に、本港区全体の問題について、ご意見があればぜひお願いしたい。今日頂いたゾーニングする上での色々な課題とか、気を付けておかなければならないこと、また整理して事務局の方で案を練り上げてもらいたい。

8 令和5年度の進め方と概ねのスケジュール視察候補箇所（案）について（発言順）

（岩崎委員）

- ①今のご説明だと、県民の意見を聞いて、そこから選択的に採用に値するものをピックアップして、それをもとに、ゾーニングの素案を作るみたいなことをおっしゃったように聞こえたが、まず私の理解は正しいのか、間違っているのか。
- ②1月頃に素案という話で、委員長が3か月空くってという話をおっしゃったが、3か月も委員会を行わない理由も全く分かりません。1月ぐらいに素案が出てきたとき、さっき申し上げたように、私が聞き間違っていなければ、ゾーニングみたいなものは、どっちかというと委員会の意見ではなく県民から出てきた意見を、県庁の中でピックアップしたものでゾーニングの案をここに素案として出すということになるのか。そして、5月ぐらいには最終決定とするとですよ、県庁の中で県民の意見を聞いた素案を前提に我々はたった3か月でその素案を根本的にいじることができない委員会なんですかね。という風にみなさんの進め方は、そういうふうに聞こえたんですけど、私が聞き間違っていなければ正しくご説明いただけませんか。もしそういう想定であったら、この委員会は開催する必要がないんじゃないですか。少なくとも、まず、この意見で、県民の意見は置いておいて、我々の意見の中でゾーニングの素案をまず作ることが大切なのではないんですか。そしてそれにああだこうだ言って、その素案、行政の場合は何かあれば素案を出して、ガス抜きの委員会をやったって意味がない。
- ③ただ、ガス抜きのような委員会のつもりで出席しているつもりはない。厳しい言い方だが、私が言いたいのは、早めに素案をまずは出していただいて、それに固執することなく、委員が意見を言って、それを見直すにあたって、県民の意見を入れて最終案に仕上げていく方が合理的でかつ委員会の存在意義がある方法論ではないかと思う。
- ④それから、視察先だが、先進事例みたいなお話ではなく、森下先生じゃないですけど、我々は競争している。だから、敵情視察という意味において、長崎と高松以外に見に行っても、神戸や横浜見に行っても、分不相応なところを見たって何の役にも立たないと思う。

（木方委員）

- ①岩崎委員の意見は最もでそのとおりだと思うので、ぜひご検討いただきたい。
- ②もうひとつ、視察地に関しては、もちろんそういう意味で、都市のスケールとかそういった話もあるが、むしろさきほど今後の論点で出てきたような景観への配慮であるとか、中心市街地との連携、それから公共機能の確保、特に港湾機能の問題、今日も大きな問題になっていたので、こういう問題がきちんと総合的に検討できるような対象地を選ばないと、おっしゃるとおり大都市の一部分だけ見てもこれを検討することはできないので、そういった意味でもやはり高松であるとか長崎であるとかが適切であると思う。
- ③（視察先が長崎などということについて）特に、離島航路も多くあるのと、港湾と中心市街地が近接してまして、今、施設整備も進んでいるという意味では、高松あたりは対象地としては近いものがあるのではないかと。

(森委員)

- ①県外視察というのぜひお願いしたいと思っていて、その中で、実際にこのポイントをまとめていただいて、課題を踏まえた調査の視点というのもいただいたので、ぜひこれまで出てきた議論、それぞれみなさん鹿児島をイメージしながら論点出していただいたと思うが、視察をした上で、やっぱりここに関してはこう思うよね、っていうようなことがあれば、それもぜひ意見交換の整理でしっかり議論ができるようにして、それを踏まえてゾーニングの話につなげていただきたいなという風に思う。
- ②ここの流れだとなんとなく見に行っ、どうだったのかということに関しての意見交換が十分に行われるのかどうか少し気になったので、そこをぜひやった上で、素案の作成というところにぜひ反映してもらえるといいのかなと思う。
- ③それから、視察先としては、確かに色々な捉え方があると思います。高松なんかは、景観とか周辺環境との調和という話も結構意識して施設なんかも作っているという風に聞いているところもあるので、このへんも見る視点としてはいいのではないかと思ったところ。

(事務局)

- ①複数の委員の皆様から、高松、またあるいは長崎という具体的な箇所についてもご説明いただいたところ。日程調整の中での、例えば、事務局案として、こういった案が相応しいのではないかと考えて、高松、神戸をご提案させて頂いたところですが、今のご意見を踏まえて、そういった日程調整がどういった形で可能になるか、ということも今後検討させていただいた上で、最終的な視察箇所というのを委員の皆様にもご確認いただいた上で、最終的に決定したいと考えており、まずは今いただいた長崎港、高松港につきまして、調整を図りたいと考えている。
- ②それと、岩崎委員の方からございましたゾーニングのとりまとめの中身についての事務局の認識についての質問でございます。私どもの意見募集については、あくまでも検討委員会の委員の皆様が、同エリアの利活用の全体像の検討を行っていただく上での参考とするために、意見募集を今行っているものと考えている。そういったことから、あくまでも、ゾーニング素案をとりまとめるにあたっての検討を進めていただくのは、この検討委員会の委員の皆様のご意見等を踏まえた検討であるというように理解している。そういった意味で、意見募集の内容についても、意見募集結果というものをまず委員の皆様にお示しした上で、詳しくお聞きする必要があると思われるようなご意見について、今後プレゼンテーションの参加を求めて、それをお聞きいただいて、また、検討委員会の皆様としての検討の材料、参考にさせていただければと考えているところ。

(岩崎委員)

- ①関係がないのは分かった。だったら、素案はもっと気楽に、素案1とか素案2とか、それくらい何回か出すつもりで、あまり力まないで出していただいた方が、我々は反映、結論に納得できるものになると思う。

(森下委員)

- ① 視察は無理かもしれないが、海外の事例を少しお調べ頂けるとありがたいかなという風に思う。
特に、港を中心としてフィッシャーマンズワーフとか、アメリカ、ヨーロッパにはいくつか例があるかと思うので、事務局の方で海外の事例を少しお調べいただいて、お示し頂けると助かる。

(木方委員)

- ① 我々委員会が見に行き、それぞれのご見識で見てくるといったのは大事だと思うんですけど、県民市民に対する説明というところから言うと、論点あるいは視点をしっかり踏まえた上で、それに対する調査をしっかりやって、報告をするという義務もあると思う。
- ② 気になっているのは、候補地を出していただく中で、最終的にメッセであるとかコンベンション施設、ハコモノの施設が対象地になってしまっているんですが、そうじゃないんじゃないかなと私は思う。あくまで、港湾の調査なので、何度も話が出ているように公共機能の確保、例えば物流と観光や交流施設をどう両立させているのかとか、あるいは景観の問題についてどうしているのかとかいうことを見に行くのであって、また観光施設を見に行くわけでもなくて、調査するにあたって、導入機能だけではなくて、それと港湾施設がどう両立しているのかとか、中心市街地の回遊性をどう確保しているのかと複合的に調査をしていかないと、とても良い、面白い魅力的な施設があるね、といった事であれば誰でも言えると思うので、そういう調査をしていただくのではないかなと私は思っています。
- ③ 今回、視察するにあたって、実際に対象地を絞った上で、どなたにどういう話を聞くのかという時に、単に施設計画をするのではなくて、例えば港湾機能を司っている物流の担当の方にちゃんとお話を聞くとか、そういうこともきちんとしていただきたいなと思う。そうしないと、最終的なゾーニングを検討するにあたっての資料にならなくて、なんとなくないものねだりで終わってしまう気がするのでそこは十分ご留意いただきたい。

9 **令和5年度の進め方と概ねのスケジュール視察候補箇所（案）に対する委員長のとりまとめ**

- ① 5年度の進め方につきましては、さきほどいただきましたご意見を踏まえ、事務局と相談するというにしますが、視察地については、高松、神戸よりも高松、長崎の方が強そうな意見なので、高松、長崎とした上で、目的、それからなにをやってくるかというのをしっかり明確にした上で、もう一回事務局と相談させていただき、皆様に提案させて頂く。
- ② みなさんお忙しいので、全員が行ける日にちというのはちょっとないかもしれないが、さきほど、森下委員が言われたように、海外の状況とか例えば神戸の状況はどうかというのを、ある目的に従ってみなさんに提示していくということはあると思うので、それもちょっと事務局にいただこうかなと思う。

【補足】令和5年度の進め方と概ねのスケジュール（資料7）

年度	開催時期	協議事項
R 4	12月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・現状説明、今後の進め方 ・鹿児島市の意見（サッカー等スタジアム） ・利活用についての意見交換
	1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所の意見（まちづくりビジョン） ・利活用についての意見交換 ・県民からの意見募集の手法等
	3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・環錦江湾ネットワークの意見（錦江湾を活かした都市デザイン） ・利活用についての意見交換 ・令和5年度の進め方と視察候補箇所
R 5	5月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・県外視察
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者によるプレゼンテーション ・利活用についての意見交換
	8月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの意見交換の整理 ・ゾーニング素案の協議・検討
	1月～2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニング案の取りまとめ

スタジアムに関する確認事項について

1 スタジアムとシビックプライドの関係性

(1) プロスポーツが醸成するシビックプライド

これまでの学術研究や関連調査において、スタジアムにおける観戦体験、特にスタジアムを訪れ、その地域や都市を代表するチームを応援する行動が、地域や都市への愛着・誇りを高め、シビックプライドの醸成に寄与することが示唆されており、スタジアムには、このような数字で表せない効果もあるものと考えている。

○ スタジアム・アリーナ改革指針 スポーツ庁(2016)

スタジアム・アリーナに足を運び、地域を代表するスポーツチームを応援し、一喜一憂を経験することで、地域住民のアイデンティティや愛着の形成につながる。

○ 「プロスポーツ・ファンの愛着とスポーツ観戦者行動」二宮浩彰(2010)

観戦に対する関与が高いファンほど、地域同一性や地域依存性といった地域への愛着が強く、また、同一地域に拠点を置いている他のプロスポーツの観戦意図が高い。

○ 「Jリーグクラブの「ファンづくり」と「まちづくり」の有機的關係構築の検討—ファンのチーム・アイデンティティと地域意識のクラブ間比較分析から—」藤本淳也ほか(2013)

Jリーグの3クラブを対象にチーム・アイデンティティを分析した結果、チーム・アイデンティティが、地域意識を高める可能性の十分な示唆は得られた。

○ 「スポーツと地域活性化 コロナ禍を経て見直される社会的価値—日本スポーツ産業の過去と未来 アフターコロナを見据えて(第2回)」野沢亮太(2021)

調査の結果、「愛着」「誇り」の両面において、ホームゲーム観戦経験がある川崎市在住の方が、より高い値を示したことがわかった。

スタジアム・アリーナおよびスポーツチームの存在が、スポーツの観戦やスポーツ活動への参加を通じて、地域のコミュニティを強化し、地域アイデンティティの醸成に貢献していることは、スポーツの社会的価値といえる。

(2) まちの誇りとなるスタジアム

本市が目指している「鹿児島らしさ」を感じられるスタジアムは、桜島や錦江湾の眺望が
楽しめ、鹿児島食や文化に触れることもできる施設であり、さらに、本市の自然景観や街
並みとの調和に配慮したデザインで整備することにより、地域のシンボルとして市民・県民
に愛され、まちの誇りとなるスタジアムになるものと考えている。

<眺望が楽しめるスタジアム>

錦江湾・桜島の雄大な鹿児島らしい景色を一望することができる展望デッキを備えることで、新たな眺望スポットとして国内外にPRできる場になると考えている。

市民や観光客などが日常的にアクセスできる展望デッキは、本市特有の景観を誰もが楽しめるスポットとなり、他都市のスタジアムと差別化を図ることができる。

○ 展望デッキからの眺望イメージ



ドルフィンポート跡地等



住吉町15番街区

2 観光交流拠点機能及び食文化発信機能をもたらす効果

集客施設であるスタジアムに観光交流拠点機能や食文化発信機能を併設し、旅行者でもある観戦者やイベント参加者に対し、県内の観光地等に関する情報提供や、食をはじめとする鹿児島県の魅力をアピールすることで、さらなる消費拡大、波及効果が見込めるとともに、試合等のマスコミ報道を通じた鹿児島県の情報発信にもつながるものと考えている。

なお、現在、計画が進められている長崎や広島スタジアムにおいても、スタジアムを核としたにぎわい、交流、回遊性向上などの機能整備が図られているところである。

(1) 観光交流拠点機能

鹿児島など県全体の魅力発信拠点、試合等の来場者を観光客として県内各地の観光地に送客する観光案内拠点や、鹿児島県のスポーツレガシー／レジェンドに触れられるミュージアム



観光案内所（センテラス天文館）

出典：かごしま市観光ナビ



カシマサッカーミュージアム

（カシマサッカースタジアム：茨城県鹿嶋市）

(2) 食文化発信機能

- ・鹿児島県の食材、食文化に触れることができる
カフェ・レストラン・バー
（ケータリング対応：多機能化）
- ・鹿児島県の食材を活かした特産品・伝統工芸品の販売（複合施設としての導入）



トッテナム・ホットスパー・スタジアム（イギリス）

3 経済波及効果（サマーナイト大花火大会との比較）

項目	スタジアム（A）	サマーナイト 大花火大会（B）	比較（A／B）
来場者数	43万人（注）	7万人	6.1倍
来場者による 経済波及効果額	約63億円	約6.7億円	9.4倍

注） サードプレイス・展望デッキ等利用者を除く。

※ スタジアム需要予測等調査・整備検討支援業務最終報告は、QRコードからご覧いただけます。



中心市街地のにぎわいの創出や回遊性の向上に資する事業（令和5年度）



- 市内全域**
- ⑥街なかリノベーション推進事業
 - ⑦中小企業資金融資事業（街なかリノベーション推進資金）
 - ⑨頑張る商店街支援事業
 - ⑯鹿児島マラソン開催事業
- 中心市街地内、都市機能誘導区域の団地核**
- ⑧創業者テナントマッチング事業
- 中心市街地内**
- ③歩いて楽しめるまちづくり推進事業（3-1 まちなか建替え等促進事業）
 - ④市街地再開発促進事業
 - ⑱中心市街地にぎわい創出支援事業
- 天文館公園、文化通り、銀座通り**
- ⑭天文館ミリオネーション開催事業
- 天文館**
- ⑩観光イベント創出支援事業
 - ⑪おはら祭推進事業
 - ⑮‘美味のまち鹿児島’づくりイベント支援事業

③歩いて楽しめるまちづくり推進事業
(3-2 加治屋町1番街区市街地再開発事業)



③歩いて楽しめるまちづくり推進事業
(3-3 まち案内活動)



鹿児島中央駅
ライカ1920

⑤甲突川千本桜再生プロジェクト事業

③歩いて楽しめるまちづくり推進事業
(3-4 照国表参道歩行者天国実施支援)



⑱鹿児島ぶらりまち歩き推進事業

③歩いて楽しめるまちづくり推進事業
(3-5天文館通電停前アーケード整備支援)

㉔都市交通システム整備事業補助金

⑱鹿児島ぶらりまち歩き推進事業

②まちなか夜間景観形成事業

①浜町1番街区再開発事業

③歩いて楽しめるまちづくり推進事業
(3-6 マイアミ通り歩いて楽しい空間づくり社会実験事業)

㉒路面電車観光路線検討事業

㉕市道バリアフリー推進事業

⑰甲突川リバーサイド利活用事業



㉔シェアサイクル運営事業

⑱鹿児島ぶらりまち歩き推進事業

㉑ナイトタイムエコノミー実証実験事業

㉖かごしま水族館施設整備事業

⑰かごしま錦江湾サマーナイト
大花火大会開催事業



⑬錦江湾潮風フェスタ開催事業

㉗多機能複合型
スタジアム
整備検討事業

<提出資料>

- 1 鹿児島県令和5年度組織機構改正（一部抜粋） . . . 別紙1
- 2 第3回 鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会
事務局配付資料 資料1 鹿児島港の港湾計画 . . . 別紙2
- 3 第3回 鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会
事務局配付資料 資料6 今後の論点 . . . 別紙3

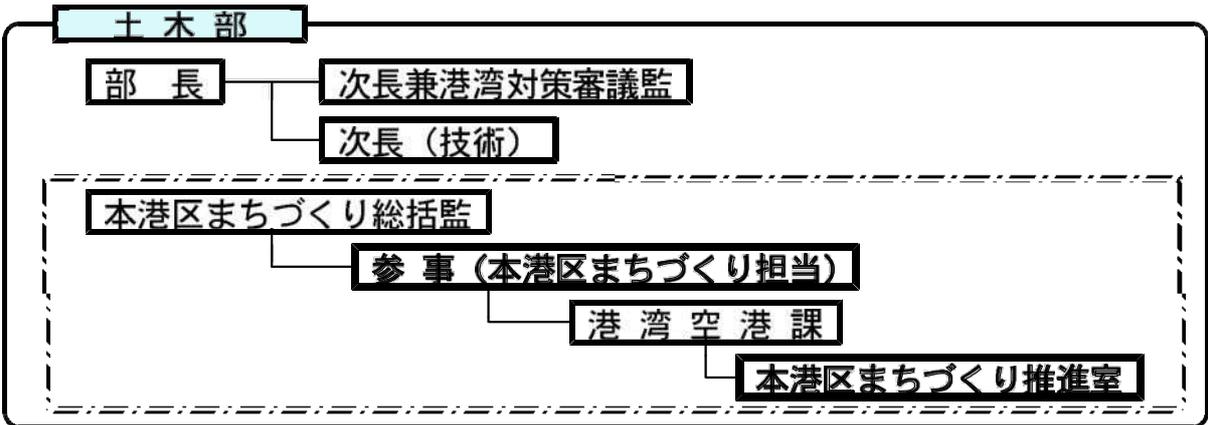
●鹿児島港本港区エリアの利活用に係る推進体制の強化

[組織体制]

鹿児島港本港区エリアについて、グランドデザインの開発コンセプトに基づき、同エリアの利活用の全体像の策定に向けた取組を着実に推進するため、土木部に「参事（本港区まちづくり担当）」を設置し、併せて、「本港区まちづくり推進室」の体制を強化する。

[主な業務]

鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会の運営 等



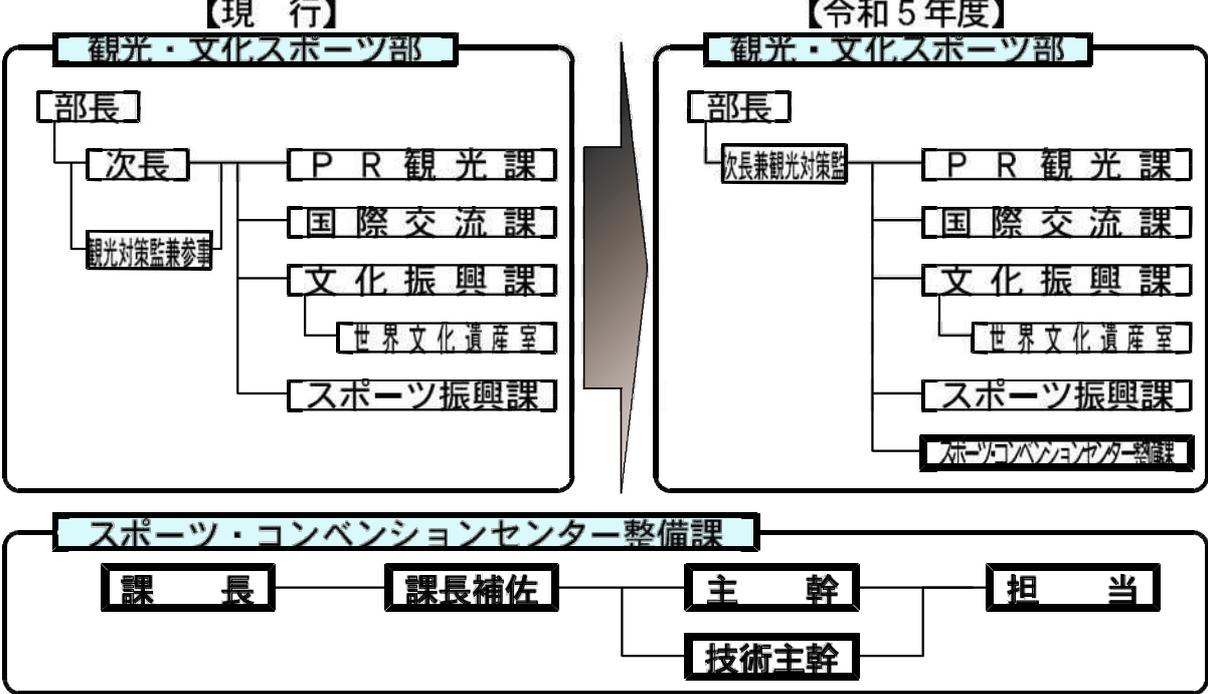
●「スポーツ・コンベンションセンター整備課」の設置

[組織体制]

スポーツ・コンベンションセンターについて、基本構想に基づき、施設整備を着実に推進するため、観光・文化スポーツ部に「スポーツ・コンベンションセンター整備課」を設置し、体制を強化する。

[主な業務]

スポーツ・コンベンションセンターの施設整備等に係る取組 等



* スポーツ・コンベンションセンター整備課の設置に伴い、総合政策部総合政策課スポーツ施設対策室は廃止。

鹿児島港の港湾計画について



令和5年3月 港湾空港課

港湾計画

港湾計画とは

港湾空間において、開発、利用及び保全を行うにあたっての指針となる基本的な計画で、港湾法に規定されている法定計画。

港湾計画に定める事項

通常10年から15年程度の将来を目標年次として、その港湾の開発、利用及び保全の方針を明らかにするとともに、取扱可能貨物量などの能力、その能力に応じた港湾施設の規模及び配置、さらに港湾の環境の整備及び保全に関する事項などを定める。

港湾計画の役割と意義

港湾に関する行政指針の基本

民間事業者等が港湾区域又は臨港地区において諸活動を実施したり、施設を建設したりする場合、その行為が港湾計画に適合しているかどうか、港湾管理者の許可の基準となる。

港湾施設の整備に関する国庫補助判断基準

国は、国際戦略港湾、国際拠点港湾及び重要港湾において施設整備の負担金、補助金又は交付金の拠出を判断する際に、港湾計画で定められた施設かどうかを判断基準としている。

鹿児島港港湾計画の平成5年改訂経緯

昭和57年港湾計画改訂

鹿児島港

本港区
S63～H元
鹿児島港ポータルネッサンス21計画調査

(鹿児島港ポータルネッサンス計画調査委員会)

【学識経験者・経済団体・港湾利用者・行政関係者】

H元～H2
鹿児島港WF開発基本計画調査

(鹿児島港WF開発基本計画調査委員会)

【学識経験者・経済団体・港湾利用者・行政関係者】

etc.

鹿児島港の基本的な整備方針(素案)

H2～H4 鹿児島港港湾計画調査

港湾計画案

鹿児島県地方港湾審議会

港湾審議会

平成5年港湾計画改訂

鹿児島港港湾計画の平成5年改訂における整備方針

要 請

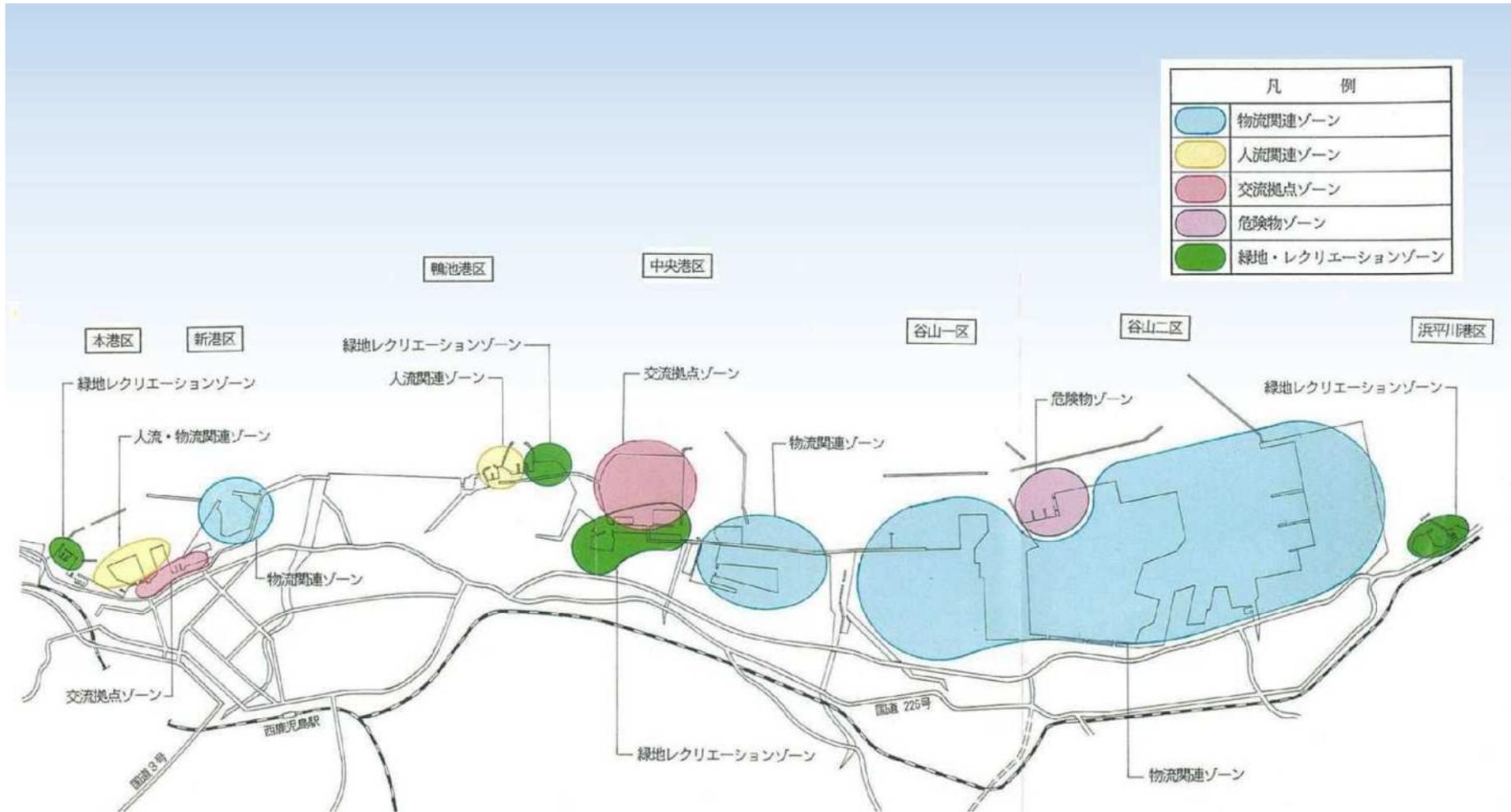
- 立地企業の生産活動の拡大をも念頭においた物流機能の充実
- 人・物・情報の行き交う国際性豊かな交流拠点の形成
- 健全かつ安全な海洋性レクリエーション基地の整備
- 海とふれあえる魅力ある空間の創造

※これらに対処するため、以下の方針のもとに港湾計画を改訂（平成5年）

方 針

1. 貨物量の増大，船型の大型化等に対応しつつ，**外内貿流通拠点としての機能を強化**する。
2. 国際交流の進展に対応するとともに，地域住民の交流の促進を図るため，**活気と魅力のある交流拠点の形成**を図る。
3. 島しょ部との間の人流，物流の玄関口にふさわしい**賑わいと憩いのある空間の形成**を図る。
4. 中央港区西側において再開発を行い，周辺市街地と調和した，快適な環境を創出する。
5. 海洋性レクリエーション需要の増大に対応して，**マリーナを中心とした海洋性レクリエーション基地を整備**する。
6. 港湾における豊かで潤いのある快適な環境の創造を図るため，親水性に配慮した**緑地等を整備**する。
7. 遊漁船，漁船，官公庁船等の小型船の適切な収容を図るため，**小型船だまりを整備**する。
8. 港湾と背後地との円滑な連絡を図るとともに，港湾内の円滑な交通を確保するため，**臨港交通体系の充実**を図る。
9. 港湾における諸活動の安全を確保するため，所要の外郭施設を整備する。
10. 効率性，安全性，快適性の高い空間を形成するため，陸域1,200haと水域3,600haからなる**港湾空間を以下のように利用**する。
 - ① **本港区東側**は，島しょ部等との間のフェリーを中心とした**人流・物流ゾーン**とする。
 - ② **新港区**は島しょ部向け貨物を，**中央港区南側，谷山一区及び谷山二区中央部**は各種内外貿貨物をそれぞれ取り扱う**物流関連ゾーン**とする。
 - ③ **鴨池港区中央部**は**人流関連ゾーン**とする。
 - ④ **本港区西側及び中央港区中央部**は**交流拠点ゾーン**とする。
 - ⑤ **谷山二区北側**は**危険物ゾーン**とする。
 - ⑥ **本港区北側，鴨池港区南側，中央港区西側及び浜平川港区**は**緑地レクリエーションゾーン**とする。

鹿児島港港湾計画の平成5年改訂における港湾利用ゾーニング図



鹿児島港の港区別機能

◆鹿児島港の港湾区域は南北20kmに及び、本港区、新港区、谷山地区など七つの港区に分かれ、それぞれの港区毎に機能分担が図られている。

鹿児島市中心市街地と隣接し、桜島フェリー、種子・屋久航路、三島・十島航路、奄美・喜界航路の発着場



鴨池・垂水フェリーの発着場



臨海工業用地、完成自動車の集積・配送拠点、都市ガス等エネルギー供給基地



奄美・沖縄航路、種子島航路の発着場



クルーズ船が寄港する交流拠点、臨海部防災拠点、LPGの基地



九州の穀物物流拠点、総合卸団地やトラックターミナルが立地



ヨット・プレジャーボート等の基地



本港区の港湾計画



利活用検討の土台

港湾としての機能

グランドデザイン

スポーツ・コンベンションセンターの基本構想

利活用のビジョン・コンセプト

年間365日 賑わう拠点の形成

【3つの要素】

- ①かごしまの多彩な魅力を発信する人・モノ・情報の交流拠点
- ②かごしまの魅力を体感できるエンターテインメント空間
- ③景観資源(錦江湾や桜島, 歴史的建造物)を活かした魅力ある空間

検討委員会で出された意見を踏まえた今後の論点

カテゴリー	検討課題	今後の論点
景観への配慮	景観(デザイン)マネジメントのあり方	●「整備」と「保全」の空間デザインの方向性を具体的にどのように仕分けするか(桜島と錦江湾を間近に望み, イベント会場や県民の憩いの場として現在も活用されているウォーターフロントパークは「保全」するとの議論の方向性であった)。
〃	ウォーターフロントパークの緑地としての利活用の拡充	●スポーツ・コンベンションセンターとの一体的な利活用について, 具体的にどのような方法や取組が考えられるか。
中心市街地との連携	中心市街地(天文館, 中央駅)との役割分担と相乗効果	●本港区エリアはどのような役割を担うべきか(中心市街地(天文館, 中央駅)が主として担う飲食・物販等の商業的機能とは競合しないようにすべきとの意見あり)。 ●中心市街地(天文館, 中央駅)との回遊性を向上させるためには, 具体的にどのような方法や取組が考えられるか。
公共機能の確保(港湾や交通など)	港湾として確保すべき機能	●北ふ頭, 南ふ頭及び高速船ターミナルについては, 港湾の核心的機能である人流・物流の海上交通の拠点として, 各離島の生活と経済を支える重要な役割を担っていることから, 船舶の離接岸, 乗下船, 荷役, 陸上運搬などに支障がないようにするため, 利活用の全体像を検討するに当たってどのような点に留意すべきか(大規模施設の駐車場に起因する渋滞がないようにすべきとの意見あり)。
観光	観光拠点としてのあり方	●本港区エリアの観光拠点としてのあり方をどのように考えるか(クルーズ客を受け入れ, 農畜産物など県産品の飲食・物販の拠点として外貨を稼ぐような国際観光都市との意見あり)。
導入機能	導入すべき機能	●景観への配慮, 中心市街地との連携, 公共機能の確保, 観光などに関するこれまでの意見や, グランドデザインとの整合性を踏まえ, どういった機能(例:緑地, 観光, 交流等)を導入すべきか。

望まれる利活用の全体像

- 利活用のあり方や, どの場所にどういった機能を持たせるかというゾーニングの方向性をどのように考えるか(中長期的な視点からの利活用の検討, 民間活力の導入, 商工会議所からの提言などの意見あり)。